

(報道・研究発表資料)



平成 22 年 8 月 16 日

各位

会社名 株式会社 KCR 総研
代表者名 代表取締役 金田一 洋次郎
本社 大阪市城東区鳴野西 5-17-12KCR. INC
TEL 06-6965-6100

KCR 総研アナリストレポート格付ランキング 2010 年度版発表と
個人投資家向け IR 活動普及に対するアナリスト取材協力の企業表彰について

I. 趣旨

当社では、個人投資家のためのシンクタンクとして優良株・IPO 株・中小型株に特化し、継続的に企業リサーチを実施しています。当社のアナリストレポートは一部を除き個人投資家向けに有料配信されていますが、原則レーティング有効期間である 6 ヶ月を過ぎたレポートは、無料でアナリストレポートが読める WEB サイト「IR チャンネル」(<http://www.ir-channel.jp/>) 等で無償公開しています。この度、当社では、2010 年度版として 09 年 1 月～12 月に総合判断レーティングを発表した 96 社、のべ 114 銘柄に対し格付ランキングを発表しました。また、格付パフォーマンスの検証として、レポート発表後の 1 ヶ月後、3 ヶ月後、6 ヶ月後の高値・安値騰落率を分析し、株価パフォーマンス分析を実施しました。株価パフォーマンス分析においては、当社の分析手順である IR 戦略分析、定量分析、定性分析、株価分析、総合判断分析の 5 つの分析レポートにおいて各ランキングを実施し、各分析レーティングと株価パフォーマンスの検証を行うことによって、各レーティングの正確性・有効性を検証しました。ここに各レーティング検証結果と見出された知見につき報告するとともに、各分析部門における上位 10 社に対し、個人投資家向け IR 活動への普及とアナリスト取材協力の感謝の意を込めて表彰をさせていただきます。

当社のレポートは以下の特長があります。

- 1.日本で初めてアナリストレポートを 10 種類に完全標準化(※)し、異業種、企業規模の大小関係なく比較できる確かな投資判断が可能なレポートを完成
- 2.個人投資家のためのシンクタンクとしてアナリストレポート活動を実施

3.分析の手順は、IR の充実度を見る「IR 戦略分析」から業績を見る「定量分析」、戦略を見極める「定性分析」、理論値より割安かどうかを見極める「株価分析」の4分析を経て総合判断レーティングである「総合判断分析」を実施

4.東京・大阪・名古屋 3 拠点に提携アナリストを配置し企業を直接訪問。カバーの難しい IPO 企業、新興市場、中小型企業も極力訪問し調査するよう努めている

(※) 当社調べによる

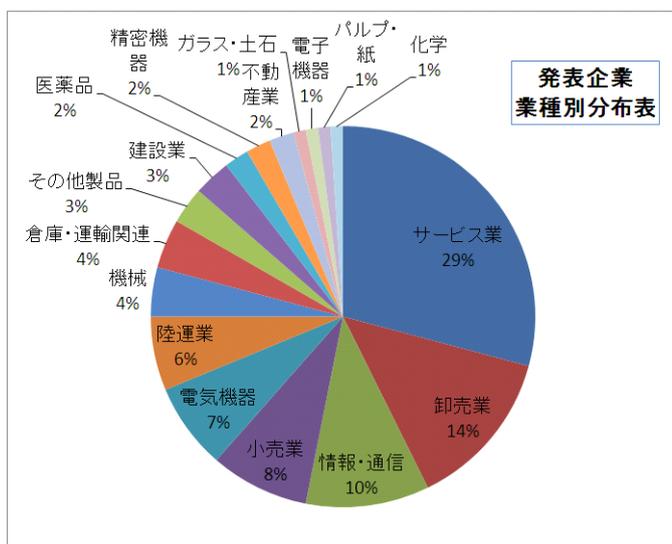
ランキング対象企業概要は、以下の通りです。

主として、当社が 2009 年中に取材訪問した企業及び関連銘柄企業で総合判断レーティングを発表した企業

レーティング対象企業数 96 社

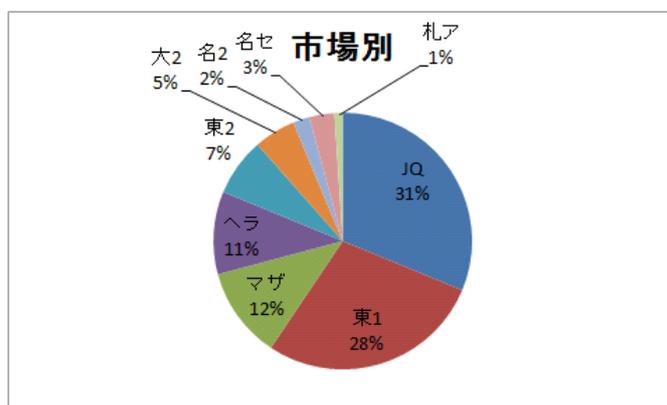
レーティング銘柄数 114 銘柄

業種は、17 業種に対し調査を実施、メーカー比率は約 20%でありサービス業多いのが特長

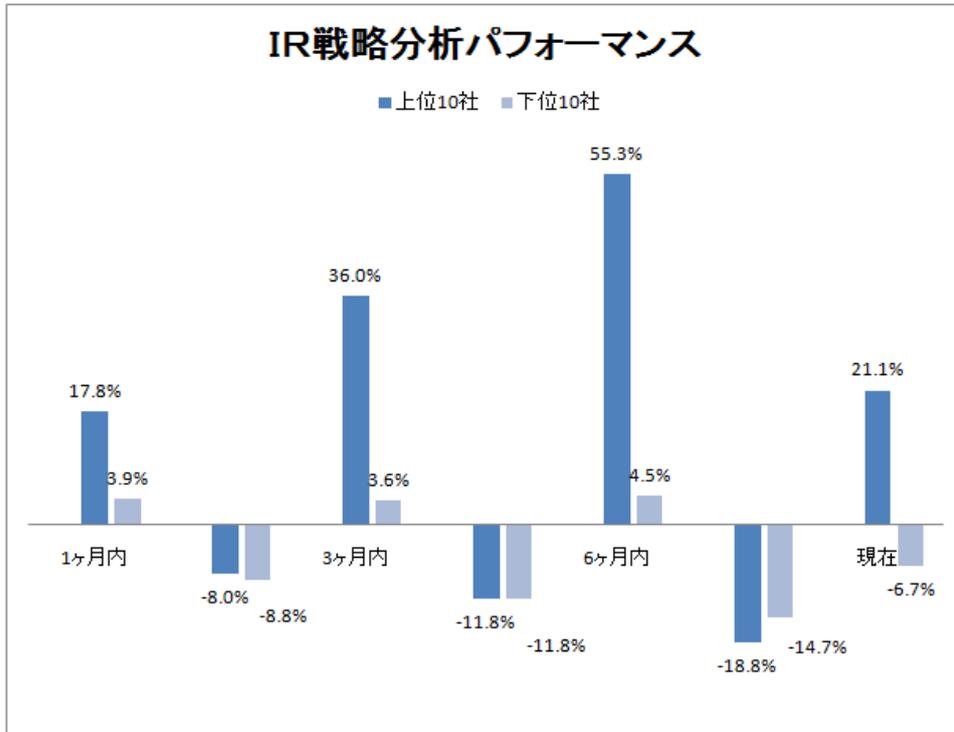


発表企業市場別分布については、幅広い市場に対し調査を実施、約 7 割が東証 1 部以外の市場

JQ	30
東1	27
マザ	11
ヘラ	10
東2	7
大2	5
名2	2
名セ	3
札ア	1
合計	96

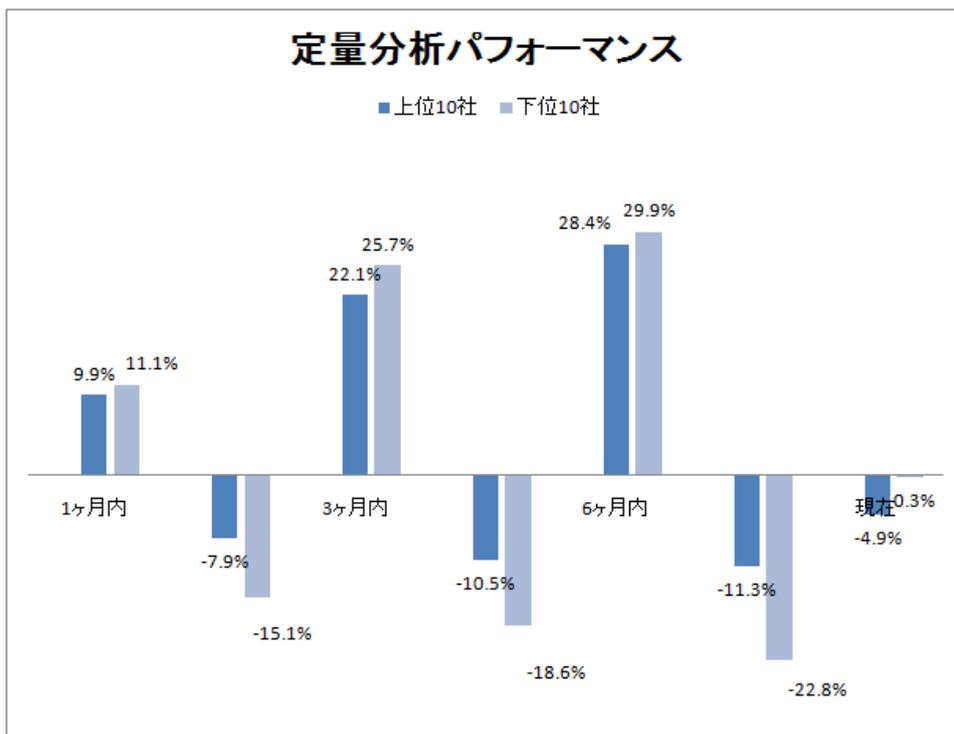


II. 各分析結果の検証



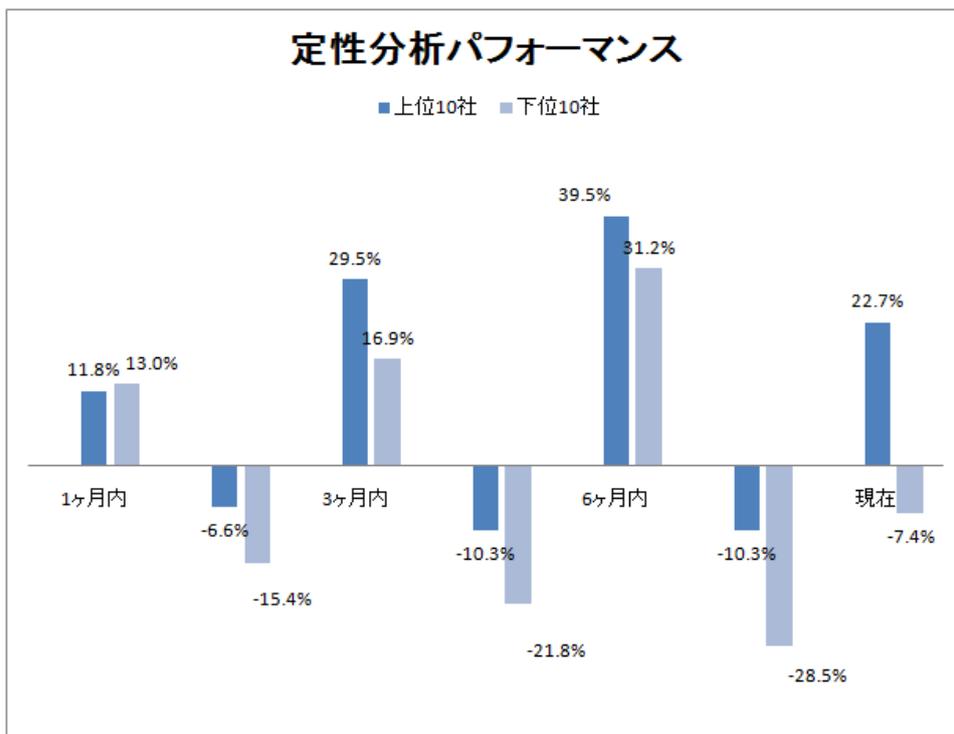
IR 戦略分析レポートは、当該企業の IR 戦略度を見る分析レポートです。一般に、企業 IR が株価にどのような影響を与えているか明確な証明に至っていないと思われませんが、仮に企業の IR 活動の充実度と株価パフォーマンスにおいて何ら関係がないとすれば、企業が費用的・時間的コストをかけて IR 活動に勤しむのは著しく合理性に欠くことになります。当社では、企業の IR 活動の戦略性を IR オフライン活動、IR オンライン活動、IR ツール充実度、IR フェアディスクロ度、IR 経営戦略度の 5 つの観点から導き出される IR 総合判断レーティング指数を格付しています。上記の図表は、今回の IR 戦略分析における上位ランキング 10 社と下位ランキング 10 社のポートフォリオにおける株価パフォーマンス比較をレポート発表時の株価を出発点に、各 1 ヶ月後・3 ヶ月後・6 ヶ月後の高値・安値騰落率を示しており、最終グラフは評価日（2010 年 7 月 24 日時点）現在を表しています。同図表によれば、IR 戦略上位 10 社と下位 10 社の株価パフォーマンスの違いは明らかで、特に 6 ヶ月内で見えた場合の高値騰落率は、上位 10 社と下位 10 社では 50% 以上のパフォーマンスの差がついています。一方、安値騰落率においては、大きな差はなく、IR 活動が充実していても株価下落局面では上位下位ともに下落していることが見て取れます。

このことから、企業の IR 活動は株価上昇局面においては大きな株価パフォーマンス効果を期待できるが、下落局面においては、一般に言われるような明確な株価下支え効果は見出せなかったといえます。

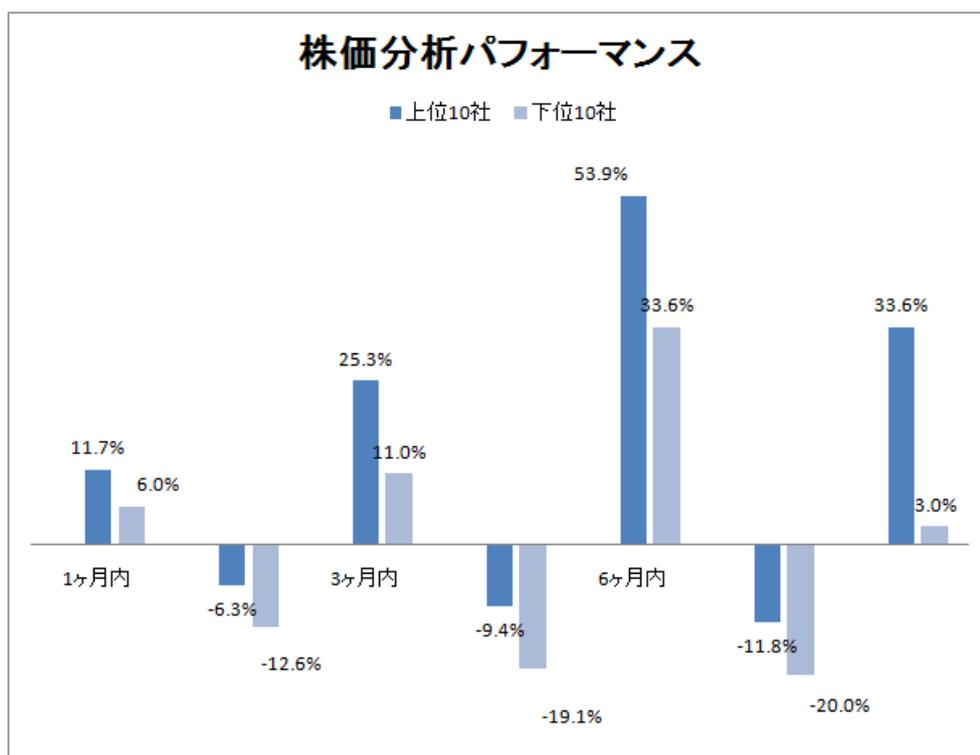


定量分析レポートは、当該企業の業績からアプローチする分析レポートです。格付にあたっては、当社が選定した当該企業の収益性・効率性・安全性・成長性・生産性の 5 つの指標を、上場企業で、類似もしくは同業種・同業態・同モデルと思われる任意の 3 社を抽出し、各指標につき比較分析して導きます。比較数値は、直前期末の決算数字を用いており、あくまでも実績値で比較し格付しています。IR 戦略分析と同様に定量分析において上位 10 社、下位 10 社のポートフォリオを分析したところ、上図表が示すように株価上昇局面においては、上位・下位とも大きなパフォーマンス差はなくほぼ同率のパフォーマンスを見せたのに対し、下落局面においては、上位 10 社に対し、下位 10 社は大きく値を下げていることが見て取れます。特に 6 ヶ月以内のパフォーマンスでは、下落率において倍以上の差がついていることが見て取れます。

このことから、定量分析の格付は、高格付銘柄であっても、低格付銘柄と比較して株価上昇効果はさほど期待できませんが、下落局面においては、高格付銘柄の方が一定の株価下支え効果をもっていることが分かります。定量分析においては、開示されている財務数値は、あくまでも過去の情報であり、既に株価に織り込まれていると予想できることから、定量格付とその後の株価上昇とはほとんど関係がありませんが、下落局面においては、各指標における財務内容の良さから売られにくいということが言えると思います。もっとも高格付銘柄の場合は、低格付銘柄に比し、その後の発表数字において市場が期待しているコンセンサスより低い場合（例えば会社予想数字を下回る場合など）、大きく下落するリスクがあることから注意が必要といえます。

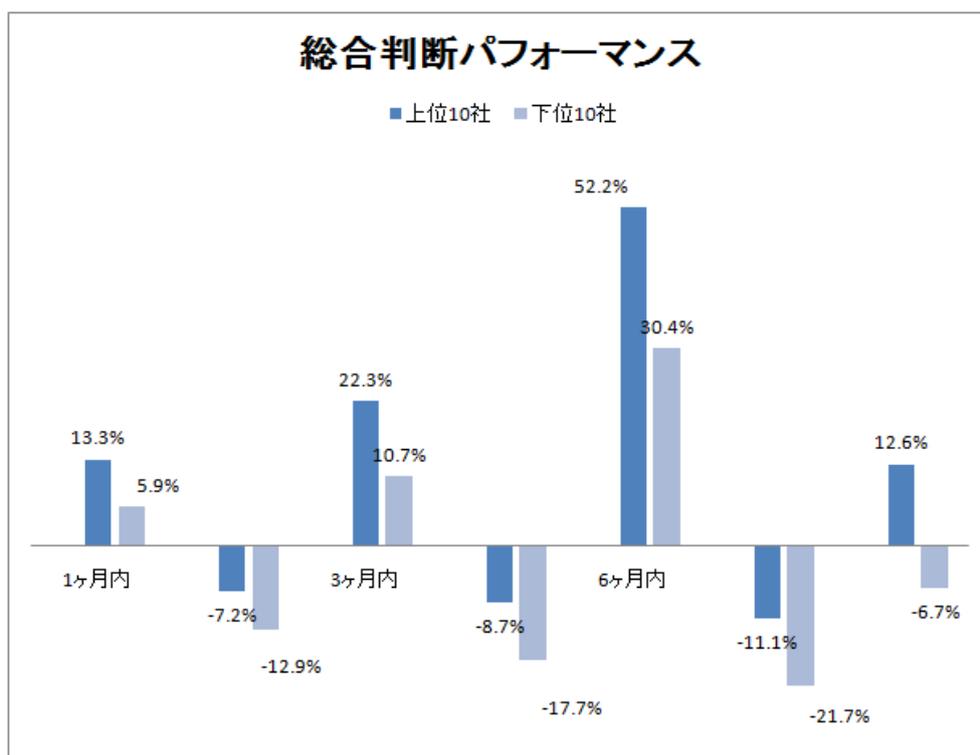


定性分析レポートは、企業業績の数字では表せられない経営戦略面からアプローチして分析するレポートです。当社では、ポーターの競争理論を応用して、141項目のマトリックスから当該企業の競争力を格付することにより、経営戦略度を指数化しています。方法としては、当該銘柄の所属セクターの参入障壁に代表される5フォース分析（新規参入業者・業界内構造・代替品・顧客交渉力・業者交渉力）により業界内構造を格付し、当該企業の戦略度を3つの側面（コスト・リーダーシップ戦略・差別化戦略・集中戦略）から分析します。また、その戦略に各々リスクがないかを検証するリスク分析を実施し、経営バランスがとれているかどうかを整合度、重点度、計画性、目的度の4視点から見極める戦略性チェック分析を経て本社環境や社風といった戦略とは別の要因であるその他の定性要因を分析し、最終的な定性分析に基づく経営戦略を最終格付しています。定性分析格付による株価パフォーマンスとしては、上図表に見られるように上昇局面においては、1ヶ月以内の株価パフォーマンスを除き概ね上位10社のポートフォリオが下位10社を凌駕して推移していることが分かります。また、下落局面において、上位10社は下位10社に比較して下がりにくいことが見出せます。このことから、定性分析格付は、上昇局面においては概ね期待した株価パフォーマンスをみせ下落局面においては大きな株価下支え効果があることが分かりました。定性分析は、定量分析と違い、企業が所属する市場環境や市場戦略など法定開示資料では見出すことが比較的困難な情報が多いのが特徴です。そのため、企業が任意で行うIR活動の充実度と大きな繋がりがあると思われ、定性格付が高格付でかつ先述したIR戦略分析の格付が高い企業は、より高い株価パフォーマンスが期待できるのではないかとの仮説が成り立つと思われま



株価分析レポートは、当社が開発した理論株価算定システムにより、当社が予想する当該企業の将来3期の数字データを用いて理論値を算出し、現在株価との乖離率から株価割安度・割高度を分析する格付レポートです。理論株価は、類似会社比準方式、簿価純資産方式、収益還元方式、売上高倍率方式、DCF（ディスカウント・キャッシュフロー）方式の5方式のほか投資家の目線に立って単純に時価総額、業界や市場のPSR、PER、PBRの観点からも理論値を算定し、総合理論株価を算出しています。算出される指数はマイナス乖離ほど株価割安度が高く、プラス乖離ほど株価は割高に推移していることとなります。投資家の視点に立てば株価が割安なほどリスクが低いと考えられるため、マイナス乖離が高い企業ほど高格付となります。これまでの分析と同様の観点から、上位10社と下位10社のポートフォリオパフォーマンス比較を実施したところ、上図表に見られるように上昇過程において上位10社が下位10社を圧倒するパフォーマンスを出しています。また、下落局面においても上位10社は、下位10社に比較して下がりにくいパフォーマンスとなっています。

このことから、理論値の算定から導かれる現在株価との乖離率による格付は、割安株を見出すのに有効であるばかりか、同様に算定される割高株よりも高いパフォーマンスが期待でき、同時に割高株よりも半分程度のリスク低減効果があることが分かります。このことはマイナス乖離企業群とプラス乖離企業群で同様の分析を試みた場合、6ヶ月以内の高値騰落率で、マイナス乖離群 60.2%、プラス乖離群 19.0%と更に大きな差がつくことから特に上昇過程で大きなパフォーマンスが期待できることが分かります。



総合判断レーティングレポートとは、これまで見てきた IR 戦略分析、定量分析、定性分析、株価分析の 4 分析に加え、市場のテーマ性を加味し、総合判断分析としてレーティングを実施するものです。レーティングは 5 段階で +1 (STRONG BUY)、+2 (BUY)、+3 (HOLD)、+4 (SELL)、+5 (STRONG SELL) と最終的レーティングを付与しています。IR 戦略分析、定量分析、定性分析、株価分析の 4 分析の視点をバランスよくミックスすることにより、各分析による特長を取り込むほか各分析から算出された誤謬を修正する役割も担っています。また、市場のテーマに当該銘柄が該当するかはその後の株価パフォーマンスに大きな影響を与えると思われます。当社では、最終判断において、市場のテーマ性に合致するかを指数化して加点し、総合判断指数を算出することにより最終レーティングを付与しています。これまでと同様に上位 10 社、下位 10 社のパフォーマンスを比較しますと総合判断分析においては、上昇局面において高値騰落率が 1 ヶ月以内、3 ヶ月以内、6 ヶ月以内のどの時点においても安定した高いパフォーマンスを見せているほか、下落局面において、どの時点においても下位 10 社よりリスクが低いという結果になっています。

このことから、総合判断分析は、上位の高格付銘柄は、下位の低格付銘柄より上昇しやすく値下がりにくいということが見出せるといえます。特に総合判断パフォーマンス上位 +2 (34 銘柄) と下位 +4、+5 (23 銘柄) を比較した場合、上昇過程においての株価上昇パフォーマンスは、6 ヶ月以内に上位群が 73.4%、下位群が 21.7%と 50%以上もパフォーマンスが開いています。従って、総合判断分析に基づくレーティングは、比較的大きな株価パフォーマンスが期待でき下落局面においても下がりにくいということがいえます。

これら 5 つの分析から見出される知見は以下の通りです。

- 1、 IR 戦略が充実している企業は、株価が上昇しやすく高いパフォーマンスが期待できる半面、下落局面には株価下支え効果はない
- 2、 定量格付が高いすなわち現在業績のよい企業は、将来の株価高パフォーマンスを保証しないが、一定の株価下支え効果はある
- 3、 定性格付が高格付でかつ IR 戦略分析の格付が高い企業は、より高い株価パフォーマンスが期待できるのではないかと仮説が成り立つ
- 4、 株価が理論値よりもマイマス乖離している企業は、上昇局面において高パフォーマンスであるばかりか下落局面においても比較的lowリスクである
- 5、 総合判断上位格付企業+2 以上のポートフォリオは最も高いパフォーマンスが期待できる

当社のレーティングとその後の株価パフォーマンスにおいては、上位と下位の比較を見る限り、総じて高確率で上位格付銘柄が下位格付銘柄より高いパフォーマンスが期待でき、かつ低リスクであるとの仮説を立てることができたといえます。しかし、もとより、1年程度の検証で、上記のような知見が絶対的なことであるということとはできません。また、細部において期待される予想を大きく外した企業があることも事実として反省点は多々あります。今後さらに分析精度を向上させることによってパフォーマンス向上を図りたいと思います。

Ⅲ. アナリスト取材協力の企業表彰について

当社は、企業使命として個人投資家の育成、企業 IR の普及を掲げています。機関投資家に比較して情報が入りにくい個人投資家にとって、企業が個人投資家に向けて活発に IR 活動を実施するかどうかは、個人投資家が自らの責任で投資判断するためにおいても極めて重要なことです。当社は、個人投資家のためのシンクタンクとして、アナリストレポートを配信していますが、正確な企業価値を示すアナリストレポートを発表すると同時に、個人へ向けた企業の活発な IR 活動を促すことも重要な役割だと思っています。そのため、企業が個人投資家にアプローチしやすいインフラ整備も進め、企業が活用しやすい環境を整えることにより IR 支援も実施しています。

個人投資家に正確な情報を提供するためにもアナリスト取材は、企業の協力があってはじめて成るものであり、こうした当社の企業活動に理解を示し、日々の当社業務にご協力

頂いている企業には深く感謝しております。アナリストレポート格付ランキング 2010 年度版を上梓すると同時にここに IR 戦略分析、定量分析、定性分析、株価分析、総合判断分析の各分析部門上位 10 社に対し、感謝の意を込めて感謝状を表彰致します。

★IR 戦略分析部門 上位 10 社★

順位	発表日	会社名	コード	IR戦略分析
1	03/26	ベネッセコーポレーション	9783	94.3
2	03/04	インテリジェント ウェイブ	4847	91.0
3	07/17	GMOホスティング&セキュリティ	3788	91.0
4	01/26	GMOホスティング&セキュリティ	3788	88.7
5	06/10	セブテーニ・ホールディングス	4293	85.3
6	07/24	パイブドビッツ	3831	84.3
7	09/16	フィールズ	2767	84.3
8	02/02	物語コーポレーション	3097	83.7
9	09/11	立花エレテック	8159	83.7
10	09/25	日本写真印刷	7915	82.7
11	06/11	クリーク・アンド・リバー社	4763	81.7

※ IR 戦略分析レーティングはレポート発表当時、96 社 114 銘柄中のベスト 10 企業

※ 社名が重複するのはレーティング変更発表のため

※ 敬称略、114 銘柄平均は 65.5 ポイント

★定量分析部門上位 10 社★

順位	発表日	会社名	コード	定量分析
1	02/16	タビオ	2668	82.7
2	02/20	ドクターシーラボ	4924	80.0
3	10/25	エーアイテイー	9381	80.0
4	07/08	エーアイテイー	9381	80.0
5	06/04	エーアイテイー	9381	80.0
6	12/02	ゲンダイエージェンシー	2411	77.4
7	10/28	学究社	9769	76.7
8	04/22	エーアイテイー	9381	76.0
9	06/10	ゲンダイエージェンシー	2411	76.0
10	12/22	クリップコーポレーション	4705	75.3
11	07/24	ミクシィ	2121	74.7
12	10/14	早稲田アカデミー	4718	73.3
13	09/28	エヌ・ピー・シー	6255	73.3

※ 定量分析レーティングはレポート発表当時、96 社 114 銘柄中のベスト 10 企業

※ 社名が重複するのはレーティング変更発表のため

※ 敬称略、114 銘柄平均は 58.8 ポイント

★定性分析部門 上位 10 社★

順位	発表日	会社名	コード	定性分析
1	09/24	プラネット	2391	88.9
2	03/05	ドウシシャ	7483	85.8
3	10/25	エーアイテイー	9381	84.9
4	03/18	フジコー	2405	84.4
5	04/22	エーアイテイー	9381	84.3
6	02/19	デジタルハーツ	3620	83.9
7	09/10	上組	9364	83.5
8	10/24	サムシングホールディングス	1408	82.8
9	02/26	ワッツ	2735	82.7
10	06/04	上組	9364	81.8
11	12/02	ゲンダイエージェンシー	2411	81.3
12	06/10	ゲンダイエージェンシー	2411	81.3
13	12/01	幼児活動研究会	2152	81.0

※ 定性分析レーティングはレポート発表当時、96 社 114 銘柄中のベスト 10 企業

※ 社名が重複するのはレーティング変更発表のため

※ 敬称略、114 銘柄平均は 71.9 ポイント

★株価分析部門上位 10 社★

順位	発表日	会社名	コード	株価分析
1	04/15	遠藤製作所	7841	-112.5
2	02/25	ピーアンドピー	2426	-87.7
3	01/30	高橋カーテンウォール工業	1994	-83.8
4	01/16	ウィザス	9696	-76.4
5	10/24	サムシングホールディングス	1408	-71.5
6	02/26	ワッツ	2735	-70.7
7	03/11	ケア21	2373	-67.2
8	12/22	クリップコーポレーション	4705	-62.7
9	11/13	ムサシ	7521	-62.6
10	12/01	幼児活動研究会	2152	-62.5

※ 株価分析レーティングはレポート発表当時、96 社 114 銘柄中のベスト 10 企業

※ 敬称略、114 銘柄平均は 9.6 ポイントプラス乖離

★総合判断分析部門上位 10 社★

順位	発表日	会社名	コード	総合判断	レーティング
1	02/25	ピーアンドピー	2426	71.9	+2
2	04/15	遠藤製作所	7841	71.3	+2
3	02/26	ワッツ	2735	71.0	+2
4	11/13	ムサシ	7521	71.0	+2
5	12/01	幼児活動研究会	2152	71.0	+2
6	07/24	パイブドビッツ	3831	69.9	+2
7	03/05	ドウシシャ	7483	69.7	+2
8	01/26	GMOホスティング&セキュリティ	3788	69.5	+2
9	06/04	エーアイテイー	9381	69.3	+2
10	01/16	ウィザス	9696	67.4	+2

※ 総合判断分析レーティングはレポート発表当時、96 社 114 銘柄中のベスト 10 企業

※ 敬称略、114 銘柄平均は 47.7 ポイント

IV. 感謝状表彰企業一覧

	会社名	コード	業種	決算	市場	レーティング指数	格付	部門	
1	サムシングホールディングス	1408	建設業	8月	ヘラ	-71.5	★★★★★	株価分析部門	
						82.8	★★★★★	定性分析部門	
2	高橋カーテンウォール工業	1994	建設業	12月	JQ	-83.8	★★★★★	株価分析部門	
3	ミクシィ	2121	サービス業	3月	マザ	74.7	★★★★	定量分析部門	
4	幼児活動研究会	2152	サービス業	3月	ヘラ	71.0	★★★★	総合判断分析部門	
						-62.5	★★★★★	株価分析部門	
						81.0	★★★★★	定性分析部門	
5	ケア21	2373	サービス業	10月	ヘラ	-67.2	★★★★★	株価分析部門	
6	プラネット	2391	サービス業	7月	JQ	88.9	★★★★★	定性分析部門	
7	フジコー	2405	サービス業	6月	マザ	84.4	★★★★★	定性分析部門	
8	ゲンダイエージェンシー	2411	サービス業	3月	JQ	81.3	★★★★★	定性分析部門	
							★★★★	定量分析部門	
9	ピーアンドピー	2426	サービス業	3月	JQ	71.9	★★★★	総合判断分析部門	
							-87.7	★★★★★	株価分析部門
10	タビオ	2668	卸売業	2月	大2	82.7	★★★★★	定量分析部門	
11	ワッツ	2735	小売業	8月	JQ	71.0	★★★★	総合判断分析部門	
							-70.7	★★★★★	株価分析部門
							82.7	★★★★★	定性分析部門
12	フィールズ	2767	卸売業	3月	JQ	84.3	★★★★★	IR戦略分析部門	
13	物語コーポレーション	3097	小売業	6月	JQ	83.7	★★★★★	IR戦略分析部門	
14	デジタルハーツ	3620	情報・通信	3月	マザ	83.9	★★★★★	定性分析部門	
15	GMOホスティング&セキュリティ	3788	情報・通信	12月	マザ	69.5	★★★★	総合判断分析部門	
							91.0	★★★★★	IR戦略分析部門
16	パイプドビッツ	3831	情報・通信	2月	マザ	69.9	★★★★	総合判断分析部門	
							84.3	★★★★★	IR戦略分析部門

17	セブテーニ・ホールディングス	4293	サービス業	9月	JQ	85.3	★★★★★	IR戦略分析部門
18	クリップコーポレーション	4705	サービス業	3月	JQ	-62.7	★★★★★	株価分析部門
						75.3	★★★★★	定量分析部門
19	早稲田アカデミー	4718	サービス業	3月	東2	73.3	★★★★★	定量分析部門
20	クリーク・アンド・リバー社	4763	サービス業	2月	ヘラ	81.7	★★★★★	IR戦略分析部門
21	インテリジェント ウェイブ	4847	情報・通信	6月	JQ	91.0	★★★★★	IR戦略分析部門
22	ドクターシーラボ	4924	化学	1月	東1	80.0	★★★★★	定量分析部門
23	エヌ・ピー・シー	6255	機械	8月	マザ	73.3	★★★★★	定量分析部門
24	ドウシシャ	7483	卸売業	3月	東1	69.7	★★★★★	総合判断分析部門
							★★★★★	定性分析部門
25	ムサシ	7521	卸売業	3月	JQ	71.0	★★★★★	総合判断分析部門
						-62.6	★★★★★	株価分析部門
26	遠藤製作所	7841	その他製品	3月	JQ	71.3	★★★★★	総合判断分析部門
						-112.5	★★★★★	株価分析部門
27	日本写真印刷	7915	その他製品	3月	東1	82.7	★★★★★	IR戦略分析部門
28	立花エレテック	8159	卸売業	3月	東1	83.7	★★★★★	IR戦略分析部門
29	上組	9364	倉庫・運輸関連	3月	東1	83.5	★★★★★	定性分析部門
30	エーアイテイー	9381	倉庫・運輸関連	2月	マザ	69.3	★★★★★	総合判断分析部門
						84.9	★★★★★	定性分析部門
						80.0	★★★★★	定量分析部門
31	ウィザス	9696	サービス業	3月	JQ	67.4	★★★★★	総合判断分析部門
						-76.4	★★★★★	株価分析部門
32	学究社	9769	サービス業	3月	JQ	76.7	★★★★★	定量分析部門
33	ベネッセコーポレーション	9783	サービス業	3月	東1	94.3	★★★★★	IR戦略分析部門

※証券コード順、敬称略

V. 対象企業 96 社一覧

総合レーティング発表企業一覧表

1	01/13	ウルシステムズ	3798	33	04/15	遠藤製作所	7841	65	07/24	ミクシイ	2121
2	01/16	ウィザス	9696	34	04/21	サムシングホールディングス	1408	66	07/27	アットマニエージュホールディングス	2337
3	01/19	タカショー	7590	35	04/22	エーアイティー	9381	67	08/04	アートコーポレーション	9030
4	01/20	きちり	3082	36	04/23	応用技術	4356	68	08/04	サカイ引越センター	9039
5	01/22	中山福	7442	37	04/24	東和薬品	4553	69	08/04	ヤマトホールディングス	9064
6	01/26	GMOホスティング	3788	38	04/27	スターティア	3393	70	08/04	日本通運	9062
7	01/30	高橋カーテンウォ	1994	39	05/27	カフタ	6292	71	08/11	高千穂交易	2676
8	02/02	物語コーポレーション	3097	40	05/28	イムラ封筒	3955	72	08/23	三谷産業	8285
9	02/03	パイブドピッツ	3831	41	06/02	日本エスコン	8892	73	08/31	ニッセン債権回収	8426
10	02/09	UBIC	2158	42	06/03	トレーディア	9365	74	09/01	FDK	6955
11	02/16	タビオ	2668	43	06/04	センコン物流	9051	75	09/02	ショクパン	9969
12	02/17	インネクスト	6660	44	06/04	上組	9364	76	09/02	日東工業	6651
13	02/18	理経	8226	45	06/10	ディーエムエス	9782	77	09/11	立花エレテック	8159
14	02/19	デジタルハーツ	3620	46	06/10	セブチーニ・ホールディングス	4293	78	09/15	グローリー	6457
15	02/20	ドクターシーラボ	4924	47	06/10	ゲンダイエージェンシー	2411	79	09/16	フィールズ	2767
16	02/25	ビーアンドビー	2426	48	06/11	クイック	4318	80	09/18	一六堂	3366
17	02/26	ワッツ	2735	49	06/11	クワーク・アンド・リバー社	4763	81	09/25	日本写真印刷	7915
18	02/27	テクノアルファ	3089	50	06/14	キャリアデザインセンター	2410	82	09/28	エヌ・ピー・シー	6255
19	03/04	インテリジエント	4847	51	06/15	日本エス・エイチ・エル	4327	83	09/30	三井倉庫	9302
20	03/05	ドウシシャ	7483	52	06/20	ムサシ	7521	84	10/01	エスライン	9078
21	03/09	ロングライフホールディング	4355	53	06/24	新神戸電機	6934	85	10/14	早稲田アカデミー	4718
22	03/10	アパネットコーポレーション	3242	54	06/24	シーエス・ユアコーポレーション	6674	86	10/26	鼎	9778
23	03/11	ケア21	2373	55	06/24	古河電池	6937	87	10/27	京進	4735
24	03/12	ツクイ	2398	56	06/24	日本ガイシ	5333	88	10/28	学究社	9769
25	03/13	メッセージ	2400	57	07/10	タクミナ	6322	89	11/09	あさひ	3333
26	03/16	東和メックス	6775	58	07/10	日機装	6376	90	11/17	ゴルフ・ドゥ	3032
27	03/18	フジコー	2405	59	07/13	乃村工務社	9716	91	12/01	幼児活動研究会	2152
28	03/19	太洋工業	6663	60	07/14	デンボスバスターズ	2751	92	12/07	EOI	4567
29	03/24	ワタミ	7522	61	07/15	フィスコ	3807	93	12/22	クリップコーポレーション	4705
30	03/26	ベネッセコーポレーション	9783	62	07/16	トッキ	9813	94	12/23	ダイセキ環境ソリューション	1712
31	03/27	プラネット	2391	63	07/24	GMOインターネット	9449	95	12/24	応用地質	9755
32	04/02	IMV	7760	64	07/24	サイバーエージェント	4751	96	12/25	フラクタリスト	3821

2009年1月～12月までの総合判断レーティング企業発表日付順

※ 企業の詳細ランキングについては別冊 KCR BUSINESS JOURNAL EXECUTIVE 8月号を参照

以上